

## 平成 30 年度 事 業 報 告

(2018 年 4 月 1 日～2019 年 3 月 31 日)

本年度における会員現況と主な事業内容を以下項目別に報告する。

## 1. 会 員 状 況

会員種別	平成 30 年度			参 考	
	2018. 4. 1 現在数 (A)	2019. 3. 31 現在数 (B)	年度内の増減 (B-A)	2018. 3. 31 現在数 (C)	前年度末 との対比 (B-C)
名誉会員	19	18	△1	19	△1
終身会員	176	171	△5	161	10
正 会 員	2,966	2,883	△83	2,950	△67
学生会員	844	871	27	857	14
(合計)	4,005	3,943	△62	3,987	△44
賛助会員	215 社 (293 口)	223 社 (301 口)	8 社 (8 口)	211 社 (289 口)	12 社 (12 口)
特殊会員	76 社 (102 口)	73 社 (99 口)	△3 社 (△3 口)	76 社 (102 口)	△3 社 (△3 口)

## 2. 定款・規則等の制定・改正

- (1) 音響遺産認定規約の制定 (2019. 2. 21)  
(2) 女性職員の産前産後の休業等に関する規則の制定 (2019. 2. 21)

## 3. 機 関 誌 の 刊 行

- (1) 日本音響学会誌  
本期間は毎月 1 日 (1 号は 12 月 25 日) を発行日とし、次の 12 冊を刊行した。

74 巻 4 号～75 巻 3 号 (2018 年 4 月～2019 年 3 月)

巻 号	74 巻									75 巻			計	
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
本文ページ	56	74	46	60	86	40	36	52	38	50	58	70	666	
主 な 論 文 ・ 記 事	巻頭言									2			2	
	音叉	2			2		2						6	
	追悼文	2											2	
	論文	7 (1)	10 (1)	9 (1)	9 (1)					8 (1)	8 (1)	6 (1)	57 (7)	
	技術報告											7 (1)	7 (1)	
	研究速報	4 (1)	3 (1)	4 (1)		9 (2)	4 (1)				4 (1)	5 (1)		33 (8)
	技術プラザ		10 (4)											10 (4)
	解説 (小特集を含む)	36 (3)	38 (7)	27 (4)	41 (8)	29 (4)	28 (6)	31 (4)	43 (9)	22 (3)	35 (7)	33 (4)	48 (6)	411 (65)

主 な 論 文 記 事	会議報告 (シンポジウム/活動報告)									2 (1)			2 (1)	
	連載企画		3										3	
	特別講演					6						6	12	
	研究発表会報告					1						1	2	
	選奨記事・紹介記事					12							12	
	研究会発表論文一覧					24							24	
	書評												1	2
	コーヒープレート	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24
	74 巻総目次									4				4
	AST 目次		2		1		1		2		1		1	8
	AST abstract		3		1		1		2		2		2	11
	学会記事等	2	2	2	3	2	3		2	1	1	2	2	22
	編集後記	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
会告	32	26	30	18	22	78	28	28	20	30	55	14	386	
広告	11	9	9	11	11	11	9	11	11	11	9	9	111	
発行部数	4550	4550	4300	4300	4300	4300	4300	4300	4300	4300	4300	4300	52100	
小特集タイトル		※1		※2		※3		※4		※5		※6		

注 1) 欄中の ( ) 内数値は編数。

2) 会告の内容は、研究会開催案内、音響関係国内並びに国際会議、その他周知記事である。

※1 風車騒音

- 2 “AI時代”の音響学
- 3 2020年を見据えた多言語音声処理技術
- 4 音のデザイン：豊かな社会の実現に向けて
- 5 海洋音響
- 6 位相情報を考慮した音声音響信号処理

(2) 英文論文誌 Acoustical Science and Technology

本期間は、2018年5月、7月、9月、11月、2019年1月、3月の各1日を発行日とし次の6冊をオンラインジャーナルとして刊行した。

なお、AST誌への投稿システムをJSTの協力により、“ScholarOne”システムを利用した。

Vol. 39 No. 3~Vol. 40 No. 2 (2018年5月~2019年3月)

Vol.		Vol. 39				Vol. 40		計
No.		3	4	5	6	1	2	
本文ページ		95	51	42	83	60	93	424
主 な 論 文 ・ 記 事	Foreword							
	Paper	54 (6)	30 (3)	28 (3)	48 (5)	48 (5)	54 (5)	262 (27)
	Technical Report				7 (1)			7 (1)
	Acoustical Letter	18 (5)	18 (5)	11 (3)	20 (5)	10 (3)	13 (4)	90 (25)
	Invited Tutorial						23 (1)	23 (1)
	Invited Review	19 (3)						19 (3)
	和文誌英文目次	2	2	2	1	1	2	10
	和文誌論文等内容梗概	2	1	1	1	1	1	7
Vol. 39 総目次					6			6
特集号タイトル			※1					

注) 欄中の ( ) 内数値は編数。

※1 Special Issue on spatial hearing

- (3) 科学技術振興機構 (JST) が主催する「科学技術情報発信・流通総合システム」(J-STAGE)において、日本音響学会誌及び Acoustical Science and Technology 誌 (AST 誌) を公開した。なお、日本音響学会誌の J-STAGE での公開は 6 か月後としている。

#### 4. 研究発表会の開催

- (1) 春季研究発表会は、2018 年 3 月 13 日、14 日、15 日の 3 日間、日本工業大学宮代キャンパスを会場として開催した。参加者実数は、1,307 名であった。

申込件数は 593 件、このうち、スペシャルセッションは 11 テーマ、「計測と音楽音響」、「道路交通騒音の低減に向けて」、「超音波による音響特性計測技術」、「生体機能の可視化と評価」、「ディープラーニングによる音声情報処理の進展」、「第一回音響工作・教材コンテスト」、「今あえて、駅の音サイン」、「補聴支援・移動支援技術の現状と今後」、「世界初の軟骨伝導補聴器一薬事承認を得て難聴者の使用へ」、「高臨場感オーディオと音響」、「スポーツと音」で実施した。

学生並びに新たに研究発表会に参加した方を対象とするビギナーズセミナーを開催した。なお、賛助会員と学生との交流の場として利用いただくことを目的とした交流会を開催し、6 社が参加した。また、賛助会員のポスター展示を実施し、4 社が展示を行った。

- (2) 秋季研究発表会は、2018 年 9 月 12 日、13 日、14 日の 3 日間、大分大学旦野原キャンパスを会場として開催した。参加者実数は、1,015 名であった。

申込件数は 591 件、このうち、スペシャルセッションは 11 テーマ、「話者性の制御とセキュリティ技術」、「計測と音楽音響」、「水中および海底下の可視化技術」、「音による異常検知に関する最近の研究動向」、「音の影響評価における他覚データの利用と課題」、「吸音の材料・効果・価値を再考する」、「地域デザインと音のデザイン」、「音声コミュニケーションと障害者」、「高臨場感オーディオとその要素技術ー音場の再体験を目指してー」、「障害者の活動支援のための技術と方法」、「スポーツと音」で実施した。

学生並びに新たに研究発表会に参加した方を対象とするビギナーズセミナーを開催した。また、賛助会員のポスター展示を実施し、4 社が展示を行った。

- (3) 春季並びに秋季の発表分野、講演件数及び特別講演は次表のとおりである。

分 野 別		春 季	秋 季
講 演 件 数	音 響 教 育	3	7
	超音波/水中音響	69	21
	熱音響技術	6	8
	超音波/アコースティックイメージング		29
	電 気 音 響	79	86
	電気音響/聴覚(共催)	50	50
	騒 音 ・ 振 動	26	33
	建 築 音 響	26	54
	アコースティックイメージング	9	8
	聴覚/聴覚・音声	16	11
	音声コミュニケーション	15	9
	聴覚・音声/音声コミュニケーション	41	36
	音 声 A	67	63
	音 声 B	61	56
	音 楽 音 響	16	20
	音支援 (音バリアフリー)	10	6
	音のデザイン	20	4
スペシャルセッション (春季 11 テーマ)	79	-	
スペシャルセッション (秋季 10 テーマ)	-	90	

	計	593	591
特別講演	演 題	日本の工作機械産業発展史	木を使う技、竹を使う技 —継ぐ技を中心にして—
	講 師	日本工業大学 工業技術博物館館長 松野 建一 氏	大分大学名誉教授、 日本文理大学教授 井上正文 氏

(4) 技術動向レビューの実施

2018年春季は、2018年3月13日に「オーディオ信号の圧縮符号化技術」をテーマとして実施した。2018年秋季は、2018年9月12日に「音響技術が拓くVRの高度化」をテーマとして実施した。

(5) 研究発表会ポータルサイト

広報・電子化委員会（小澤 賢司委員長）で、研究発表会ポータルサイトを作成した。ポータルサイトでは、プログラムのほか、アクセス時刻における各会場での進行状況、各講演の要旨、会場への交通案内等を表示した。

## 5. 研究会の開催

(1) 本年度に実施した各研究会の活動概要は次表のとおりである。

研究会名	委員長 (敬称略)	開催回数	発表件数	備考
超 音 波	竹内 真一	10	125	電気音響, アコースティックイメージング研究会との合同開催の分を含む
騒音・振動	戸井 武司	10	58	建築音響研究会との合同開催分の含む
電 気 音 響	島内 末廣	7	207	超音波, 音声, 聴覚, 建築音響研究会, 音響教育委員会との合同開催の分を含む
音 声	山下 洋一	7	147	電気音響研究会との合同開催の分を含む
聴 覚	小澤 賢司	7	127	電気音響, 建築音響研究会, 音響教育委員会との合同開催の分を含む
建 築 音 響	佐久間 哲哉	10	67	電気音響, 騒音・振動, 聴覚研究会, 音響教育委員会との合同開催の分を含む
音 楽 音 響	水谷 孝一	9	93	高臨場感オーディオ調査研究委員会との合同開催分を含む
アコースティック イメージング	山口 匡	5	53	超音波研究会, 音バリアフリー調査研究委員会との合同開催の分を含む
音響教育委員会	西村 明	1	27	電気音響, 聴覚, 建築音響研究会との合同開催の分を含む
合 計		66	904	

(2) 騒音・振動, 聴覚, 建築音響及び音楽音響研究会資料の年間購読の請求事務は学会事務局で代行した。

## 6. 国際交流

(1) 国際会議の開催・準備等

当学会が国内審議団体となっている ISO/TC43 の国際会議 (ISO/TC43 2018 年松江総会) を 2018 年 11 月 12 日から 16 日の間, 島根県松江市において開催した。

(2) 当学会が加盟団体となっている国際音響学会 (ICA), 国際騒音制御工学会 (I-INCE) の活動に協力した。

(3) 西太平洋地区音響学会 (WESPAC) に協力した。

- (4) 2018年7月8日～12日の間、広島グランドプリンスホテル(広島市)において開催の International Congress on Sound and Vibration(ICSV)に協力した。
- (5) (公社)日本騒音制御工学会が実施する INTER-NOISE 2023 の招致活動に協力する。

## 7. 音響規格の調査・作成

- (1) 当学会で原案作成を行った日本工業規格(JIS)に関して5年ごとの見直し作業を行った。
- (2) 当学会が作成した JIS A 1418-2, JIS Z 8731 について、それぞれ改正原案作成委員会(橘秀樹委員長)において原案を作成し、日本規格協会に提出した。
- (3) 音響に関する国際規格(ISO/TC 43, 同/SC1, 同/SC2, 同/SC3 及び IEC/TC29 関係)の審議を日本規格協会から委託され、ISO/TC43 国内委員会(鈴木 陽一委員長)、IEC/TC29 国内委員会(堀内 竜三委員長)において審議し、結果をとりまとめて報告した。

## 8. 調査研究委員会の活動

- (1) 道路交通騒音予測手法の調査研究  
 (株)高速道路総合技術研究所との共同研究により、「道路交通騒音の予測精度向上に関する研究」を実施した。道路交通騒音調査研究委員会(坂本 慎一委員長)が作業を実施した。
- (2) 音バリアフリーに関する調査研究  
 音バリアフリー調査研究委員会(中村 健太郎委員長)において、聴覚障害者のための会話システムの研究、デバイスの研究・開発・実用化及び普及を目的とした活動を行った。
- (3) 熱音響技術に関する調査研究  
 熱音響技術調査研究委員会(渡辺 好章委員長)において、既存のエネルギー変換システムが抱える廃熱の利用を目的とする調査研究を実施した。
- (4) 音のデザインに関する調査研究  
 音のデザイン調査研究委員会(岩宮 眞一郎委員長)において、製品音、サイン音、サウンドスケープ、音環境等の音のデザインについて、包括的に調査研究を行い、音のデザインの必要性、可能性、将来性を発信することを目的とする活動を実施した。
- (5) 災害等非常時屋外拡声システムのあり方に関する調査研究  
 災害等非常時屋外拡声システムのあり方に関する技術調査研究委員会(佐藤 洋委員長)において、防災行政無線子局の屋外拡声システム等に関する調査研究を行った。
- (6) 軟骨伝導に関する調査研究  
 軟骨伝導の基本メカニズムとその応用技術等について検討する軟骨伝導調査研究委員会(細井 裕司委員長)において、軟骨伝導応用機器の普及、軟骨伝導音の校正法の規定等に関する調査研究を行った。
- (7) 生物音響に関する調査研究  
 生物音響に関する研究の進歩と研究母体の拡大を図り、生物音響学分野の研究成果の発表、情報交換、連絡連携を目的とする生物音響調査研究委員会(力丸 裕委員長)において、調査研究を行った。
- (8) 音声コミュニケーションに関する調査研究  
 音声コミュニケーション技術に関連のある研究分野の研究者が活発に議論できる環境の提供を目的とする音声コミュニケーション調査研究委員会(荒井 隆行委員長)において、調査研究を行った。
- (9) 高臨場感オーディオに関する調査研究  
 高臨場感オーディオに関連する研究分野において、横断的な議論を行う機会を提供し、当該分野の更なる発展を目的とする高臨場感オーディオ調査研究委員会(安藤 彰男委員長)を設置し、調査研究を行った。
- (10) スポーツ音響に関する調査研究

音響学とスポーツ競技と音のかかわりやその競技場の音環境に関し、関連する分野の研究所が議論できる場を設けることを目的とするスポーツ音響調査研究委員会（大鶴 徹委員長）を設置し、調査研究を行った。

## 9. 学術委員会関連委員会の活動

### (1) 音響教育に関する調査研究

音響教育委員会（西村 明委員長）において音響学の教育と教育研究及びその普及を主たる目的として委員会活動を行った。なお、主な活動は以下の通り、

- ・2018年7月24日(火)、25日(水)の2日間、北海道大学において、電気音響研究委員会、聴覚研究委員会、建築音響研究委員会との合同研究会を開催した。
- ・2018年7月28日(土)、29日(日)に国立科学博物館「夏休みサイエンススクエア」に出展した。
- ・2018年9月8日(土)に国立科学博物館において、音バリアフリー調査研究委員会、ソニー・太陽(株)との共催で「音の科学教室」を開催した。
- ・2018年9月11日(火)に iichiko 音の泉ホール(大分市)において、(公財)大分県芸術文化スポーツ振興財団との共催で、「録音から探る! iichiko 音の泉ホールの響き」を開催した。
- ・2018年9月15日(土)に iichiko 総合文化センター(大分市)において、音の工作教室「目で見ると振動 一作って学ぶ音響ホーンの仕組み」を開催した。

## 10. 選 奨

### (1) 功 績 賞

音響に関する学術又は関連事業に対し、特別の功績があると認められる方に贈られるもので、第42回功績賞受賞者は、伊福部 達、河原 英紀、東山 三樹夫の3氏に決定した。なお、賞の贈呈は通常総会の際に行う。

### (2) 日本音響学会論文賞

音響学に関し学術上及び技術上貢献するところが大きい研究業績を本学会誌に発表した方に贈られるもので、学会誌73巻1号～12号、73巻1号～12号並びにAST誌Vol.38 No.1～No.6, Vol.39 No.1～No.6に掲載された論文中から優秀な論文を選び、2019年春季研究発表会選奨会場(2019年3月6日)で本賞を贈呈した。

第59回日本音響学会論文賞受賞論文(敬称略)

ア. 日本音響学会論文賞佐藤賞

○「ポピュラ音楽のドラムス演奏におけるグローヴ感の研究」

日本音響学会誌73巻10号(2017)

宮丸 友輔(金沢工業大学)、江村 伯夫(金沢工業大学)、山田 真司(金沢工業大学)

イ. 日本音響学会論文賞古井賞

○「Upper median plane localization when head-related transfer functions of different target vertical angles are presented to the left and right ears」

AST誌39巻4号(2018)

飯田 一博(千葉工業大学)、伊藤 元邦(神戸大学)、森本 政之(神戸大学)

### (3) 環境音響研究賞

環境音響学の発展に貢献した、主として建築音響分野又は騒音分野に関連する一連の研究を対象とするもので、会員から推薦のあった候補者から優秀な者を選び、2019年春季研究発表会選奨会場(2019年3月6日)で本賞を贈呈した。

第10回環境音響研究賞受賞者(敬称略)

○岡田 恭明(名城大学)

「屋外騒音伝搬と音響放射特性の解析に関する一連の研究」

### (4) 独創研究奨励賞 板倉記念

音響学に関する独創的な研究を行った若手会員の方に贈られるもので、会員から推薦のあった候補者から優秀な者を選び、2019年春季研究発表会選奨会場(2019年3月6日)で本賞

を贈呈した。

第 14 回独創研究奨励賞 板倉記念 受賞者 (敬称略)

○小泉 悠馬 (日本電信電話(株))

研究名:「深層学習に基づく音源強調のための目的関数とその学習法の研究」

○森川 大輔 (富山県立大学)

研究名:「両耳間時間差と両耳間音圧差の変化による音像の分離統合に関する研究」

(5) 粟屋 潔学術奨励賞

有為と認められる新進の研究・技術者の方に贈られるもので、2018 年春季研究発表会並びに秋季研究発表会の講演者のうちの本賞受賞対象者から優秀な者を選び、2018 年秋季研究発表会選奨会場(2018 年 9 月 13 日)及び 2019 年春季研究発表会選奨会場(2019 年 3 月 6 日)でそれぞれ本賞を贈呈した。

第 44 回粟屋 潔学術奨励賞受賞者 (敬称略/2018 年春季研究発表会, 2 名)

○上村 卓也 (NTT コミュニケーション科学基礎研究所)

「教師あり深層学習によって獲得される変調周波数の聴覚表現」

○塩田 さやか (首都大学東京)

「Moment-matching network による i-vector 生成を用いた話者照合」

○田村 和輝 (千葉大学)

「二成分 Nakagami モデルにおける散乱体密度推定精度の検証」

○寺島 裕貴 (NTT コミュニケーション科学基礎研究所)

「自然環境下における聴覚末梢の効率的符号化モデル:教師なし学習か課題最適化か?」

○中鹿 亘 (電気通信大学)

「長・短期記憶構造を持つ拡張ボルツマンマシンの検討」

第 45 回粟屋 潔学術奨励賞受賞者 (敬称略/2018 年秋季研究発表会, 5 名)

○安藤 厚志 (日本電信電話(株))

「Feature-wise Pre-training を用いた音声・言語特徴からの質問発話検出」

○高木 信二 (国立情報学研究所)

「スペクトル系列誤差に基づく DNN 音声波形モデルの学習」

○俵 直弘 (早稲田大学)

「敵対的デノイジングオートエンコーダによる非線形ひずみ除去フィルタリング」

○福森 隆寛 (立命館大学)

「インパルス応答を用いた深層ニューラルネットワークによる残響下音声認識性能予測」

○吉田 卓彌 ((株)安藤・間)

「一階常微分方程式に基づく時間領域有限要素法の吸音予測精度の改善」

(6) 学生優秀発表賞

春季又は秋季研究発表会において優秀な発表を行った学生会員に贈られるもので、2018 年春季研究発表会並びに秋季研究発表会の講演者のうちの本賞受賞対象者から優秀な者を選び、2018 年秋季研究発表会選奨会場(2018 年 9 月 13 日)及び 2019 年春季研究発表会選奨会場(2019 年 3 月 6 日)でそれぞれ本賞を贈呈した。

第 17 回学生優秀発表賞受賞者 (敬称略/2018 年春季研究発表会, 23 名)

秋山 貴則(東京大学), 上乃 聖(京都大学), 中川 拓磨(徳島大学), 倉地 俊哉(富山県立大学), 横田 健治(和歌山大学), 角野 隼斗(東京大学), 塚本 紫門(静岡大学), 野口 啓太(室蘭工業大学), 最上 伸一(東京大学), 山岡 洗瑛(筑波大学), 高橋 厚至(九州大学), 角谷 純平(東京大学), 坂吉 佑太(東京大学), 青野 浩平(室蘭工業大学), 齋藤 勝也(千葉大学), 平野 太基(室蘭工業大学), 小川 拓朗(千葉大学), 伊藤 沙織(東京都立産業技術高等専門学校), 中原 夕夏(筑波技術大学), 竹本 絢音(同志社女子大学), 右松 希心(立命館大学), 太田 正人(千葉工業大学), 矢島 義久(静岡大学)

第 18 回学生優秀発表賞受賞者 (敬称略/2018 年秋季研究発表会, 22 名)

Andros Tjandra(奈良先端科学技術大学院大学), 井川 翔太(東京大学), 柴田 駿人(東京工業大学), 法野 行哉(名古屋工業大学), 荻野 利基(千葉大学), 渡邊 栞(京都市立芸術大学), 鈴木 爽一郎(九州大学), 牧島 直輝(東京大学), 馬込 智瑛(首都大学東京), 溝口 聡(東京大学), 森 海里(立命館大学), 加藤 菫(九州大学), 谷川 理佐子(早稲田大学), 坂本 栞(東京大学), 天野 裕維(愛媛大学), 小林 卓実(金沢工業大学), 橋本 柚子(関西大学), 山下 洋佳(神奈川大学), 中 貴一(九州大学), 南井 美香(東京外国語大学), 見上 純一(九州大学), 岸田 陸空(神奈川工科大学)

#### (7) 技術開発賞

音響に関する工学技術の進歩発展に特に貢献したと認められる本会賛助会員の代表者, 賛助会員所属の個人, グループに贈られるもので, 公募により推薦された候補の中から優秀なものを選んだ。なお, 賞の贈呈は通常総会の際に行う。

#### 第 27 回技術開発賞受賞者 (敬称略)

- (株)大林組技術研究所  
「解体騒音低減装置「バブルサイレンサー」  
池上雅之, 本田泰大, 渡辺充敏 ((株)大林組技術研究所)
- 大成建設(株)技術センター  
「音源探査システム T Sounds-Radar の開発」  
浅井拓朗, 増田 潔 (大成建設(株)技術センター)

#### (8) 学会活動貢献賞

本学会活動の活性化に多大な貢献があった若手の正会員又は学生会員を顕彰する目的で贈られるもので, 今年度は次の 11 名を選定した。なお, 2019 年春季研究発表会選奨会場(2019 年 3 月 6 日)で本賞を贈呈した。

- 伊佐 衣代((株)エーアイ) [広報・電子化委員会の委員としての貢献に対して]
- 金 基弘(駿河台大学) [音楽音響研究委員会の幹事としての貢献に対して]
- 苮木 禎史(千葉工業大学) [編集委員会の論文部会の主査としての貢献に対して]
- 辻村 壮平(茨城大学) [建築音響研究委員会の幹事・幹事補佐としての貢献に対して]
- 土肥 哲也((一財)小林理学研究所) [騒音・振動研究委員会の幹事としての貢献に対して]
- 原 直(岡山大学) [広報・電子化委員会の委員としての貢献に対して]
- 福森 隆寛(立命館大学) [学生・若手フォーラムの代表としての貢献に対して]
- 森田 剛(東京大学) [超音波研究委員会の幹事・幹事補佐としての貢献に対して]
- 山川 仁子(尚絅大学) [聴覚研究委員会の幹事としての貢献に対して]
- 横山 栄((一財)小林理学研究所) [音響教育委員会の副委員長・幹事としての貢献に対して]
- 渡邊 貫治(秋田県立大学) [電気音響研究委員会の幹事・幹事補佐としての貢献に対して]

#### (9) 音響遺産の認定

本学会プレゼンス向上を目的として, 音響学及び音に関わる事象を「音響遺産」として認定することとした。第 1 回(2018 年度)認定候補として, 「函館ハリストス正教会 鐘楼の鐘の音」, 「本地堂(薬師堂)の鳴竜」を選定した。

### 1 1. 講習会, 講演会及びセミナーの開催

#### (1) 講習会 (敬称略)

事業委員会(苮木 禎史委員長)が今年度実施した講習会及び技術セミナーは以下のとおりである。なお, 第 162 回技術講習会は, 講師の都合で中止となった。

- ア. 「デジタル信号処理の基礎と最近のトピックス」(第 160 回技術講習会)  
期 日: 2018 年 6 月 6 日~7 日 会場: 早稲田大学西早稲田キャンパス  
講 師: 及川靖広(早稲田大学)  
受講者数: 19 名

イ. 「体験して学ぶ！スマホアプリ開発とサウンド処理入門」(第161回技術講習会)

期 日：2018年7月26日～27日 会場：全国家電会館

講 師：坂本真一((株)オトデザイナーズ), 古晒貴光((株)アプサ)  
田中 勉((株)アローズネクスト)

受講者数：22名

ウ. 「マルチセンサ信号処理」(第163回技術講習会)

期 日：2018年10月1日～2日 会場：全国家電会館

講 師：浅野 太(工学院大学)

受講者数：17名

エ. 「最新アコースティックイメージングー生体から水中・空中計測までー」(第164回技術講習会)

期 日：2018年11月8日 会場：全国家電会館

講 師：蜂屋弘之(東京工業大学)

受講者数：10名

オ. 「すっきり！わかる！音声言語処理と深層学習の最新知識」(第165回技術講習会)

期 日：2018年11月22日 会場：全国家電会館

講 師：小林彰夫(筑波技術大学), 小早川健(NHK 放送技術研究所)

受講者数：43名

カ. 「建築関連 ISO 規格の最新標準化動向」(第170回技術講習会)

期 日：2018年9月27日 会場：(一財)小林理学研究所

講 師：吉村純一(小林理学研究所), 古賀貴士(鹿島建設), 杉江 聡(小林理学研究所),  
佐藤 洋(産業技術総合研究所)

受講者数：58名

キ. 「音の評価に関する最新標準化動向」(第171回技術講習会)

期 日：2018年10月10日 会場：東京大学千三技術研究所

講 師：鶴木祐史(北陸先端科学技術大学院大学), Brian Moore(ケンブリッジ大学),  
高田正行(九州大学), 君塚郁夫(日本 IBM), 倉片憲治(早稲田大学)

受講者数：57名

## (2) サマーセミナー (敬称略)

ア. 「音響学の基礎と最近のトピックス」(第20回サマーセミナー)

期 日：2018年9月2日～4日 会場：長野県白馬・シェアリゾート白馬

講 師：安藤彰男(富山大学), 鶴木祐史(北陸先端科学技術大学院大学),  
及川靖広(早稲田大学), 大川茂樹(千葉工業大学), 高田正幸(九州大学),  
中村健太郎(東京工業大学), 長谷川英之(富山大学), 羽田陽一(電気通信大学),  
矢田部浩平(早稲田大学), 山崎芳男(早稲田大学), 渡辺好章(同志社大学)

受講者数：52名

## (3) ビギナーズセミナー

活性化・若手育成委員会(大川 茂樹委員長)で初学者を対象にビギナーズセミナーを開催した。2018年春季研究発表会では「学生時代に学んだ技術が会社や社会でどのように役立っているのか」をテーマとして、2018年秋季研究発表会では「音響学のイロハー建築音響・音のデザイン・聴覚」をテーマとして実施した。

## 1 2. 出版事業

(1) 出版委員会(坂本 慎一委員長)において、音響テクノロジーシリーズ、音響入門シリーズ、音響サイエンスシリーズ、各シリーズの主旨等について整理確認を行った。

(2) 出版委員会に属する3つのシリーズ編集委員会、音響テクノロジーシリーズ編集委員会(飯

田一博委員長), 音響入門シリーズ編集委員会(大川茂樹委員長), 音響サイエンスシリーズ編集委員会(蘆原 郁委員長)において,それぞれ企画内容について審議し,出版した。なお,2018年度の発行状況は以下の通りである。

ア. 音響テクノロジーシリーズ

- ・ 熱音響デバイス (音響テクノロジーシリーズ 21) (2018/07/25 発行)
- ・ 音声分析合成 (音響テクノロジーシリーズ 22) (2018/08/06 発行)

イ. 音響サイエンスシリーズ

- ・ 音声言語の自動翻訳 – コンピュータによる自動翻訳を目指して – (音響サイエンスシリーズ 18) (2018/07/10 発行)
- ・ 実験音声科学 – 声事象の成立過程を探る – (音響サイエンスシリーズ 19) (2018/08/20 発行)
- ・ 水中生物音響学 – 声で探る行動と生態 – (音響サイエンスシリーズ 20) (2019/01/07 発行)
- ・ こどもの音声 (音響サイエンスシリーズ 21) (2019/03/22 発行)

(3) 音響学講座編集委員会(安藤彰男委員長)において,それぞれの巻について,編集作業を進めた。なお,全10巻のうち第1巻を刊行した。

- ・ 基礎音響学(音響学講座1) (2019/03/28 発行)

(4) 音響用語辞典編集委員会(伊藤彰則委員長)において,用語の選定作業を行い,編集作業を進めた。

### 1 3. 学会電子化推進に関する活動

広報・電子化委員会(小澤 賢司委員長,荒木 章子副委員長)において,Web,メーリングリスト,Facebook及び研究発表会会場における広報活動等,各種会員サービスを行った。なお,学会ホームページの全面的な刷新作業を実施し,新たなドメインへの移行作業を行った。

### 1 4. 学会活性化,若手育成に関する活動

活性化・若手育成委員会(大川 茂樹委員長)において,サマーセミナーの実施(サマーセミナー実行委員会),ビギナーズセミナーの開催,学生・若手フォーラムの活性化を図る活動を行った。なお,学生・若手フォーラムでは,学生研究交流会,学生ランチミーティングを実施した。

### 1 5. 財務に関する活動

(1) 財務委員会(中村健太郎委員長,坂本修一(会勢拡大担当),廣江正明(産業連携担当),渡邊祐子(広告担当))において,賛助会員,広告の増加策等会勢の拡大につながる諸策を実施し,財務の安定にむけた活動を行った。

(2) 賛助会員入会のメリットの整理・追加を行い,入会の勧誘を行った。また,研究発表会ポスターセッションの空きコマを有効に活用するため,賛助会員にポスター展示の希望を募り,実施した。

(3) 2019年春季研究発表会において,当学会賛助会員と主に博士後期課程在学の学生会員を対象として情報交換を目的とする交流会を実施した。

### 1 6. 次期役員等選挙,名誉代議員制度の新設

(1) 2018年度は,2年ごとの役員等選挙の年に当たり,選挙管理委員会において,規則に従い選挙の告示,投票用紙の作成送付,開票を行った。

(2) 2018年選挙に関連して,名誉代議員制度を新設した。名誉代議員は,70歳以上の前代議員で,ご本人の承諾により就任する。名誉代議員は,会員在籍中は任期が継続する。

### 1 7. 寄付制度と学会活動活性化

2018年度会費の請求に併せて名誉会員,終身会員,正会員にご寄付を募った。なお,拠出寄

付金は、学会活性化積立資産として積み立て、学会活性化に関する事業に支出した。2018年度は、5件の活動特別支援金の申請があった。

## 18. 通常総会の開催

第52回通常総会は、2018年5月19日、全国家電会館において開催した。なお、出席者は、115名(うち議決権行使書の提出による出席78名)であった。

## 19. 理事会、役員会並びに委員会活動

### (1) 理事会

2018年度理事会は、2018年8月を除く毎月、計11回開催した。

### (2) 役員会

2018年度役員会は、2018年8月を除く毎月、計11回開催した。

### (3) 企画委員会

2018年度企画委員会(羽田 陽一委員長)は、2018年8月及び2019年3月を除く毎月、計10回開催した。

### (4) 編集委員会

2018年度編集委員会(鶴木 祐史委員長)は、2018年5月、7月、9月、11月、2018年1月及び3月の計6回開催した。

### (5) 学術委員会

2018年度学術委員会(伊藤 彰則委員長)は、2018年6月、9月、12月、2019年3月の4回開催した。

### (6) 財務委員会

2018年度財務委員会(中村 健太郎委員長)は2018年6月に開催した。

### (7) 研究発表会準備委員会

2018年度研究発表会準備委員会(荒井 隆行委員長)は、2018年6月、9月、12月、2019年3月の4回開催した。なお、研究発表会プログラム編成委員会は、6月、12月の2回開催した。

### (8) 広報・電子化委員会

2018年度広報・電子化委員会(小澤 賢司委員長)は、2018年9月、2019年3月の2回開催した。

### (9) 事業委員会

2018年度事業委員会(菅木 禎史委員長)は、2018年10月、12月の2回開催した。

### (10) 出版委員会

2018年度出版委員会(坂本 慎一委員長)は、2018年9月、2019年3月に開催した。

### (11) 本部支部連絡会

2018年度本部支部連絡は、2018年9月、2019年3月に開催した。

## 20. 他学協会等からの共催等依頼

区 分	件 数	摘 要
共 催	1 件	(一社)電子情報通信学会
協 賛	40 件	(公社)日本騒音制御工学会ほか
後 援	2 件	(一社)日本オーディオ協会ほか
計	43 件	

## 21. 支部所属会員

### (1) 関西支部

会員種別	2018年度			参 考	
	2018. 4. 1 現在数(A)	2019. 3. 31 現在数(B)	年度内の増減 (B-A)	2018. 3. 31 現在数(C)	前年度末との 対比(B-C)
名誉会員	5	5	0	5	0
終身会員	24	23	△1	23	0
正 会 員	464	451	△13	458	△7
学生会員	172	172	0	175	△3
(合計)	665	651	△14	661	△10

(2) 東北支部

会員種別	2018年度			参 考	
	2018. 4. 1 現在数(A)	2019. 3. 31 現在数(B)	年度内の増減 (B-A)	2018. 3. 31 現在数(C)	前年度末との 対比(B-C)
名誉会員	3	3	0	3	0
終身会員	15	15	0	14	1
正 会 員	134	130	△4	134	△4
学生会員	83	63	△20	84	△21
(合計)	235	211	△24	235	△24

(3) 東海支部

会員種別	2018年度			参 考	
	2018. 4. 1 現在数(A)	2019. 3. 31 現在数(B)	年度内の増減 (B-A)	2018. 3. 31 現在数(C)	前年度末との 対比(B-C)
名誉会員	1	1	0	1	0
終身会員	18	17	△1	15	2
正 会 員	274	258	△16	277	△15
学生会員	63	62	△1	66	△4
(合計)	356	338	△18	355	△17

(4) 九州支部

会員種別	2018年度			参 考	
	2018. 4. 1 現在数(A)	2019. 3. 31 現在数(B)	年度内の増減 (B-A)	2018. 3. 31 現在数(C)	前年度末との 対比(B-C)
名誉会員	0	0	0	0	0
終身会員	8	8	0	7	1
正 会 員	157	152	△5	158	△6
学生会員	61	78	17	58	20
(合計)	226	238	12	223	15

(5) 北陸支部

会員種別	2018年度			参 考	
	2018. 4. 1 現在数(A)	2019. 3. 31 現在数(B)	年度内の増減 (B-A)	2018. 3. 31 現在数(C)	前年度末との 対比(B-C)
名誉会員	0	0	0	0	0
終身会員	0	0	0	0	0
正 会 員	73	73	0	72	1
学生会員	63	67	4	64	3
(合計)	136	140	4	136	4

2 2. 支部の事業

(1) 関 西 支 部

ア. 支部役員会

支部役員会は、2018年4月、6月、11月、12月、2019年3月の5回開催。

イ. 総会・研究会・支部研究発表会等の事業

事業の内容	開催日	場 所	摘 要 (敬称略)
支部総会	30. 4. 11	京都大学総合博物館	2017年度事業実施・決算報告 2018年度事業計画・予算審議 出席者 182名(うち委任状 131通) /定足数 97名
講演会・見学会	30. 4. 18	京都大学総合博物館	京都大学総合博物館准教授 塩瀬孝之先生のご講演と総合博物館の見学 参加者 29名
談話会 第4回企業における音響技術の研究開発	30. 6. 5	パナソニック企業年金基金松心会館	発表 5件 参加者 37名
音楽音響研究会	30. 7. 21	大阪産業大学	発表 4件 参加者 13名
超音波研究会	30. 7. 31	京都工芸繊維大学	発表 11件 参加者 40名
特別講演会	30. 10. 14	京都市立芸術大学	ケンブリッジ大学名誉教授 ブライアン・ムーア先生による聴覚に関するご講演 参加者 75名
建築音響研究会	30. 10. 16	神戸大学	発表 5件 参加者 38名
第21回若手研究者交流研究発表会	30. 12. 1	同志社大学京田辺キャンパス	ポスターセッション, 懇親会 ポスター発表 30件, 企業展示 3件 参加者 120名
超音波研究会	31. 1. 22 ~ 23	同志社大学	発表 30件 参加者 22日 48名 23日 26名
電気音響研究会	31. 1. 22 ~ 23	同志社大学	発表 6件 参加者 22日 18名 23日 12名
騒音・振動研究会	31. 2. 22	近畿大学	発表 7件 参加者 16名
建築音響研究会	31. 3. 22	キャンパスプラザ京都	発表 5件

(2) 東 北 支 部

ア. 支部役員会

支部役員会は東北大学電気通信研究所において、2019年2月に開催。

イ. 総会・研究会・連合大会等の事業

事業の内容	開催日	場 所	摘 要 (敬称略)
支部総会	30. 4. 25	東北大学工学部	
第1233回学術講演会	30. 4. 24	東北大学工学部	「生物を音で可視する 一魚からクジラまで」 講師 松尾 行雄 氏(東北学院大学) 来聴者 150名
聴覚/電気音響/屋外 拡声調査研究会	30. 8. 23 ~ 24	東北学院大学土樋キャンパス	
第12回情報科学シンポジウム(後援)	30. 8. 24	東北学院大学	講演「海の生き物の声からわかること」 講師 赤松 友成(中央水産研究所) 来聴者 68名

電気関係学会東北支部 連合大会	30. 9. 6 ～ 7	岩手大学上田キャン パス	発表件数 266 件, セッション数 46, 参加者 436 名 (のべ) 広告掲載企業 30 社, カタログ展示 企業 12 社, 賛助企業 7 社 特別講演「組合せ最適化問題のた めの両氏アニーリングの現状と展 望」 講師：田中 宗 氏(早稲田大学) 特別講演「究極のエネルギー圧縮・ 利用テクニック：パルスパワー」 講師：秋山 秀典 氏((株)融合技術 開発センター)
超音波研究会	30.10. 4	東北大学青葉山キャン パス	
東北大学電気通信研究 所一般公開 2018 講演(後 援)	30.10. 6 ～ 7	東北大学電気通信研究 所	来所者 2883 名
電気音響研究会	30.10.11 ～ 12	いわき産業創造館(いわ き市)	
音楽音響研究会	30.10.13 ～ 14	八戸工業大学	
International Symposium on Universal Acoustical Communication 2018 (共催)	30.10.22 ～ 24	東北大学電気通信研究 所	主催 東北大学電気通信研究所 共催 東北支部 協賛 東京エレクトロン(株) 講演件数 67 件
第 1240 回学術講演会	30.11. 6	東北大学電気通信研究 所	「Perceptual consequences of sensorineural hearing loss」 講師 MOORE, Brian C. J. 氏(ケン ブリッジ大学名誉教授) 来聴者 19 名
東北地区音響学研究会	30.11. 9	秋田大学	発表件数 15 件 参加者 51 名
騒音・振動研究会	30.11.27	福島大学	
平成 30 年東北地区若手 研究者研究発表会(共 催)	31. 3. 2	仙台高等専門学校名取 キャンパス	「音・光・電波・エネルギー・シス テムとその応用」 講演件数 102 件 参加者 139 名

#### ウ. 若手研究者優秀論文賞

東北支部電気関係学会支部連合大会, 東北地区若手研究発表会及び東北地区音響学研究会から, 所定の手続きにより審査を行った。その結果, 電気関係学会東北支部連合大会から 2 名, 若手研究者研究発表会から 2 名及び東北地区音響学研究会から 1 名の受賞者を決定した。

### (3) 東 海 支 部

#### ア. 支部役員会

支部役員会は, 2018 年 3 月, 2018 年 12 月に開催。

#### イ. 総会・研究会・連合大会等の事業

事業の内容	開催日	場 所	摘 要 (敬称略)
2018 年度支部総会・講演 会	30. 3. 2	ホテルルブラ玉山	出席者 13 名 講演 1 件 「音響・音声・マルチモーダルイン タラクションから認知症情報学の 研究へ」 講師：竹林 洋一 氏(静岡大学)
騒音・振動研究会(後援)	30. 5. 9	名城大学天白キャンパ	講演件数 6 件

		ス	
第 22 回東海地区音声関連研究室修士論文中間発表会(後援)	30. 8. 4	名古屋工業大学	講演件数 34 件 参加者 122 名
電気・電子・情報関係学会東海支部連合大会	30. 9. 3 ～ 4	名城大学	特別講演 1 件, 一般講演 437 件 参加者 約 700 名 音響学会関連発表 8 件 ※9 月 4 日は台風接近のため中止
2018 年度支部見学会	30. 10. 31	中部国際空港セントレア	参加者 12 名
超音波研究会(後援)	30. 11. 2	愛知工業大学	講演件数 7 件 参加者 31 名
2018 年度技術講習会	30. 11. 21	名古屋工業大学	講習件数 2 件 参加者 29 名
建築音響, 騒音・振動関連若手研究発表会	30. 12. 7	名城大学天白キャンパス	講演 5 件 参加者 15 名
東海地区音声関連研究室卒業論文(中間)発表会(後援)	30. 12. 15	中部大学春日井キャンパス	参加者 72 名 講演件数 42 件
2018 年度優秀発表表彰式	30. 12. 18	ホテルルブラ王山	出席者 17 名

ウ. 学生会員発表奨励制度

東海支部が主催又は共催した修士論文中間発表会, 電気関係学会支部連合大会において優秀な講演を行った学生会員を対象として表彰した。今年は発表奨励 9 名, 優秀発表賞 5 名であった。

(4) 九 州 支 部

ア. 支部役員会

支部役員会は, 2019 年 3 月に開催。

イ. 総会・研究会・連合大会等の事業

事業の内容	開催日	場 所	摘 要 (敬称略)
建築音響研究会	30. 6. 29	北九州市立大学小倉サテライトキャンパス	共催
九州支部創立 20 周年記念サマーキャンプ	30. 8. 28 ～ 29	九重共同研修所	主催(合宿技術研修会) 参加者 正会員 8 名, 学生会員 29 名
音楽と科学レクチャー	30. 9. 11	iichiko 音の泉ホール	共催
電気・情報関係学会九州支部連合大会	30. 9. 27 ～ 28	大分大学旦野原キャンパス	共催 講演件数 422 件, うち音響関係 17 件
音声研究会	30. 10. 27 ～ 28	九州工業大学	共催
騒音・振動研究会	30. 12. 12	福岡大学	共催
電気音響研究会	30. 12. 13 ～ 14	九州大学大橋キャンパス	共催
聴覚研究会	30. 12. 14 ～ 15	九州大学西新プラザ	共催
音楽音響研究会	31. 2. 17	九州大学大橋キャンパス	共催
電気音響/音声研究会	31. 3. 14 ～ 15	アイランドナガサキ	共催
支部総会	31. 3. 30	九州大学大橋キャンパス	出席者 65 名(うち委任状提出者 39 名)

ウ. 九州支部創立 20 周年式典

2018 年 9 月 13 日, 大分大学旦野原キャンパスにおいて, 当学会 2018 年秋季研究発表会

にあわせて、九州支部創立 20 周年式典を実施した。なお、研究発表会の懇親会において、九州支部 20 周年記念特別枠とし 30 名の学生枠を設けた。

エ. 学生表彰

九州支部が主催又は共催した研究発表会、研究会等における学生の発表を対象として応募者を募り特に優れたものを表彰した。表彰式は平成 31 年 3 月 30 日の支部総会席上、今年度の受賞者は 2 名であった。

(5) 北 陸 支 部

ア. 支部役員会

支部役員会は、2018 年 4 月、7 月、9 月、2019 年 1 月、3 月に開催。

イ. 総会・研究会・連合大会等の事業

事業の内容	開催日	場 所	摘 要 (敬称略)
支部総会	30. 4. 7	金沢大学サテライト・プラザ	平成 29 年度事業報告・決算報告 平成 30 年度事業計画・予算 出席者 38 名 (うち委任状提出者 17 名)
電気関係学会北陸支部 連合大会	30. 9. 13 14	北陸先端科学技術大学院大学	音波・音響関係部門 講演 19 件 (うち招待講演 1 件) 学生優秀論文発表賞 4 件
聴覚研究会	30. 11. 21 ～ 22	ホテルこうしゅうえん	講演 31 件 (うち招待講演 4 件)
建築音響研究会	30. 11. 22	石川四高記念文化交流館	講演 4 件
研究会「防災放送による 情報伝達」	31. 1. 26	ハルモニー金沢	講演 4 件, 出席者 71 名 音声研究会と共催
音声研究会	31. 1. 26	ハルモニー金沢	講演 10 件
保育と音環境シンポジウム	31. 3. 1	しいのき迎賓館 (金沢市)	講演 3 件 出席者 23 名
北陸地区学生による研究発表会	31. 3. 2	富山高等専門学校	音波・音響部門 講演 8 件

ウ. 表彰

・平成 30 年 5 月 24 日、平成 30 年度北陸支部学会活動貢献賞の贈呈式を行った。

## 事業報告書の附属明細書

特に記載すべき重要な事項はありません。